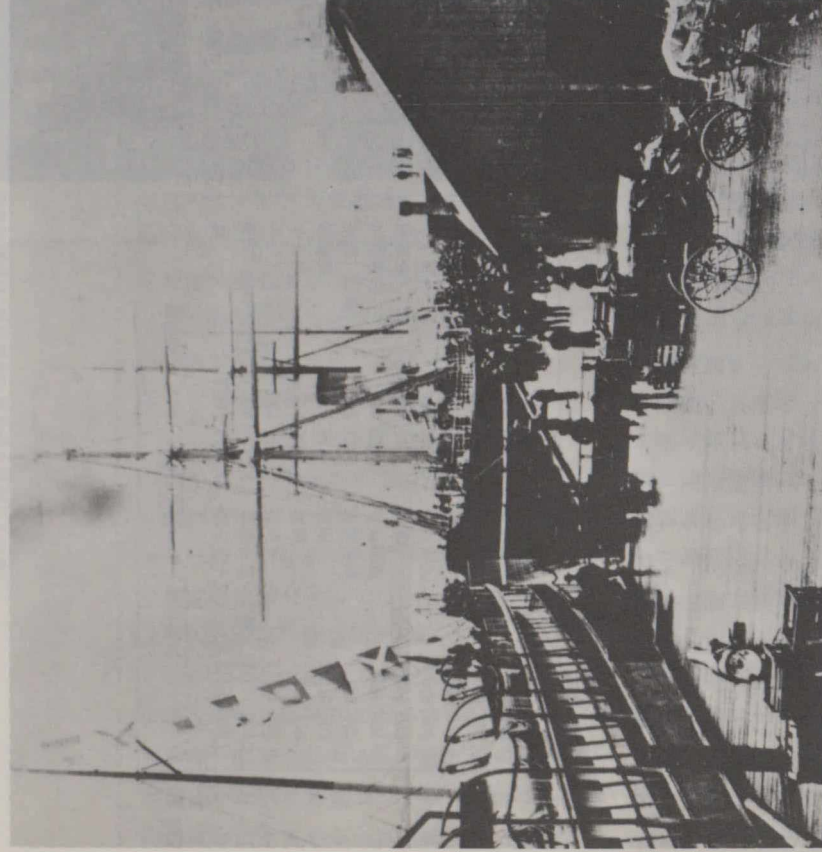




対日輸入

1906年

対日輸出

茶	\$ 562,317	魚、加工品	\$ 153,733
絹、絹製品	471,565	金属、鉱物および製品	90,549
米	139,952	木材および加工品	67,010
陶器	95,771	小麦粉	64,131
亜麻仁、ジュート、麻加工品	58,691	その他	115,952
じゅうたん	35,584	合計	\$ 491,375
セメント	28,252		
ほうき	24,238		
みかん	10,980		
その他	235,580		
合計	\$ 1,662,930		

温州みかんが、バンクーバーの日系商人によって初めて輸入されたのは一八九一年のことである。最初は日系移民だけに売られていたのが、ブリティッシュ・コロンビアの一般の人々の間でも評判を呼び、今では特にクリスマスの時期になると、カナダ中で喜ばれている。

その頃、カナダの対外貿易は英国と米国が大半を占めていた。例えば一九〇一年におけるカナダの対外輸出のうち、英国は五十パーセント、米国は三十七パーセントを占めていた。対日輸出はカナダの輸出総額の〇・一パーセント（六十五万九千ドル）に過ぎなかった。また対外輸入でも、英国が二十四パーセント、米

国が六十パーセントを占め、日本はわずか〇・五パーセントであつた。

カナダの対日輸入は、一八九六年度に茶が百四十万ドル、絹が十六万二千ドルに達するなど、順調に伸びていったが、対日輸出はきわめて少なく、石炭九十四ドル、タバコ七十五ドル、板六千ドルという具合であつた。

しかし、次の新聞記事が示すように、対日輸出を拡大していく可能性に対しては認識が高まっていた。

対日輸出

1926年

対日輸入

絹、絹製品	\$ 5,724,149	小麦	\$ 16,361,109
茶	646,127	精銅、鉄	4,270,276
米	450,890	紙パルプ	2,280,688
陶器	332,951	亜鉛鋳塊	1,668,026
みかん	220,675	乾燥および塩漬け魚	1,473,753
ほうき	169,921	丸太	1,102,915
ボタン	162,635	板	950,433
乾燥および塩漬け魚	117,729	アルミニウム加工品	864,289
豆	106,254	桶皮、鏡板	828,895
絹織物（色もの）	91,883	角材	817,189
その他	1,540,860	その他	4,077,289
合計	\$ 9,564,074	合計	\$ 34,694,962

「カナダ政府はわが国の対日輸出を大拡張できるもの」と信じている。また総理大臣の伊藤（博文）侯も、カナダは農産物および酪農製品に関して日本と幅広くかつ利益ある貿易を確立でき

✓めた動機はユダヤ人のそれと類似している点もあり、その意味でイザヤ・ベンダサンは一読の価値がある。

(三) 日本からの資金誘致政策

日本からカナダへの投資が一部の資源関係の事業分野を除き一向に増えないが、ひとつアブローナを変えた提案をしてみたらどうか。たとえば思いつきだが、日本の企業には今、窓際族と言われる高給の、しかも技術的な蓄積の高い人達の処遇に苦しんでいるとき。これらの人々に、企業や日本政府の後押しも得てその資産共々カナダに来てもらって、新しい事業を起こすことは考えられないか。元来、資本の輸出には雇用問題のプ

るだろう、と述べている。日本では、バターやチーズを生産し、肉牛を飼育することは経費がかかり過ぎるので、折り合いさえつければ、カナダはこれらの農産物を輸出してかなりの利潤を上げることができよう。日本市場にこれまで働きかけがなされてないのは、ただカナダ人の無関心のせいだ、と伊藤侯は述べている。日本では木材は稀少かつ高価であり、カナダ産材木の需要もあるはずだ」（「バンクーバー・デイリー・ワールド」一八九七年六月十一日）

一八九四年に日本と英国の間に結ばれた通商航行協定は、一九〇二年までカナダには適用されなかったが、その後日加間の貿易拡大を大きく促進した。日英両国は、また一九〇二年に同盟を結成した。これは大英帝国の巨大な力と権威ゆえに、また日本が大国として将来の役割

メラン効果はある程度必ずつきまとう。経済的にも技術的にも基盤のあるこれらの人々が多くカナダに来れば、日本の対加資本の輸出機会を増大させ、長期的には必ずカナダの雇用促進にも役立つだろう。

第一の問題については、先年発足した日本のカナダ研究会が今後果す役割は大きいだろう。クラーク氏が私の事務所の意見をどの程度とり入れたか私は知らない。同氏はイザヤ・ベンダサンの「日本人とユダヤ人」を読む時間があつただろうか。また日本でMADOGIWA, NOKUについての提案をしたかどうか。